



# 大本山永平寺



## 浄祖忌

梅雨が明けるといよいよ本格的な夏の暑さがやってまいります。そうした中、朝晩の涼しい時間に僧堂で坐禅をしていると、様々な音が聞こえてきます。鳥のさえずり、虫の鳴き声、雨音など大自然の営みの中で生活していることが感じられる時間です。この深山幽谷の地に永平寺が開かれた理由の一つが、道元禅師の師である如浄禅師の次の言葉であると言われています。

城邑聚落に住する莫れ、国王大臣に近づく莫れ、ただ深山幽谷に居して、一箇半箇を接待し、吾が宗を断絶に致らしむること勿れ

都会の喧噪や政治の権力から離れ、静寂の地において、たとえ人数は少なくとも本物の弟子を育て、その教えを絶やしてはならないといった意味になります。中国の地で如浄禅師より受け継いだ正伝の仏法を日本に広める為、帰国の途に就く道元禅師に対し、如浄禅師が送ったはなむけの言葉です。

永平寺が開かれ七七〇年経った今でも、二〇〇名を超える修行僧が昔と変わらず修行することが出来るのは、如浄禅師の教えを忠実に守ってきたからに他なりません。

七月十七日は、如浄禅師の祥月命日です。厳かに報恩の気持ちをかこめて法要がとめられます。

ご本山だより



## 大本山總持寺



### お盆棚経廻りとみ霊まつり

盆月に入る七月、總持寺では一日から十一日までお檀家先祖供養の施食会法要が毎日修され、特に六日の日曜日は江川禅師さまが大導師をおつとめになられます。

また、四月から始まった夏安居制中が七月十五日にめでたく解制となり。今春上山した新到和尚たちにとっても禁足期間が解ける嬉しい時期です。

十二日から十五日までは七月盆の棚経廻りとなります。修行僧が地図を片手に慣れない街を往来する姿は、鶴見の夏の風物詩といえましょうか。

棚経廻りが終わるころ、境内に櫓が組まれ「み霊まつり盆踊り大会」と「万灯会」が十七日から三日間、開催されます。

今回で六十七回目となるこの行持は、横浜大空襲の犠牲者と鶴見鉄道事故の犠牲者を慰霊するために始められました。また東日本大震災で亡くなられた方々への供養でもあり、仏殿や平成救世観音周辺にたくさん灯明が供えられ祈りが捧げられます。

み霊まつりを通じて人々が總持寺を身近に感じていただくことはとても大きな意味があり、修行僧にとっても地元の方々との交流を図る良い機会となっております。

大本山總持寺／045-581-6021

# 曹洞俳壇

選・村松五灰子

## 夕桜梵鐘欲しと思ふとき

愛知県 田中 澤子

評 日も落ちはじめた薄日ごしの桜が幻想的に見えたりもする。作者はそのあまりに美しい景の中に仏心を抱いた。静かに総身に響く梵鐘の音が、いまふさわしいと感じた。

## 受け入れる妻の意見や春の宵

愛知県 中根 昴生

評 どちらかといえば頑固に自分の考えで事を済ませてきた自分。妻の心根に感じいったのか。今宵は妻の意見を良しとした。優しいゆとりと温かさが感じられる。

◆地下足袋の裏の波形地虫出づ 千葉県 蛭名 節昌

◆路のたう生まれフクシマ何とする 福島県 西木 甚

◆杉かをる斎の割り箸梅三分 三重県 米野てるみ

◆目覚むれば今日のありけむ木の芽吹く 千葉県 鈴木 英子

◆野に遊ぶ妻は少女となりにけり 神奈川県 小野沢邦彦

◆海底に庭持つ蟹あまの磯菜摘み 秋田県 小田篤恭葉

◆花びらの一期の舞を空高く 大分県 久恒 大輔

◆彼岸ですからと花屋のお姉さん 京都府 村井 澄子

◆雪国の春へようこそ総踊り 新潟県 大橋 恒次

◆まんさくの水引細工のやうな花 愛媛県 井上 征郎

◆館パンを枝に吊るして耕せる 長崎県 崎田 定雄

### \*選者吟

歩まねばこの炎天が裁きなら

五灰子

### \*作句小見

今年も暑い夏になりそうです。炎帝に向かい汗、汗の日々、そんな暮らしの中から涼やかな一句一句が生まれ、心の避暑ともなればいいですね。

# 曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

漢々たる郷の閑上一巡し兄の柩は茶毘所に  
向かう  
宮城県 須藤智恵子

評 東日本大震災の大津波で、壊滅的被害を被った宮城県名  
取市閑上<sup>のりあけ</sup>、そこで被災し失意の内に病死なさった兄上。三年  
経った現在も町には人影がないという。茶毘への道筋は、一  
日も早い町の復興を願う兄上の祈りの軌跡でもあるろう。

カンボジアの子ら待ちてみむこの絵本クメモー  
ル語を貼る日本語の上に  
長野県 漆戸 栄子

評 満足な教育を受けられない子どもたちが世界にはまだ大  
勢いる。日本で眠る多くの絵本の再利用。「貼る」という動  
作が、子らの期待に直接に答えることになっていて力強い。

◆読み書きを習わぬ母がただ一度吾に書きくれし「ハナ」  
という文字  
東京都 鈴木 正作  
◆羽根少し開きしままに路上にて轢かれし蠅螂に夕闇迫る  
山口県 濱田 道子

◆茂吉詠みし馬酔木の花に馬酔木知る記念に植えて六十年  
経ぬ  
三重県 小阪 晋

◆舞い上げて日がな吹雪ける春彼岸泣きたいような太陽お  
ぼろ  
山形県 多田 さよ

◆豪雪の国道4号異国めき信号青にも車列動かす  
福島県 大槻 弘

◆丹念に研ぎし包丁立春の空に幾度か振りて水きる  
長野県 毛涯 潤

◆大根の抜き菜は木綿の糸ほどの白き根にはやつんと香の  
立つ  
静岡県 横山 政子

◆春光に包まれ君の晴れ姿よろこび詰めて背負うランドセ  
ル  
神奈川県 玉山 葉子

◆臥龍梅の白き真珠の玉よりも箒目ひかる洞泉寺の庭  
山口県 横川美代子

◆ひそやかに椿落つるも一期なり冬の日ざしをあつむる庭  
に  
山口県 山本ミチヨ

## \*選者詠

鳥の目もまた虫の目も求められ乾きゆく目  
に桜もおぼろ  
ちづ

## \*作歌小見

玉山さんの歌の「君」はぴかぴかの一年生。みんなの期待  
がこもるランドセル。鈴木正作さんの母の歌、「ハナ」は母  
上の名前だったのか、花がお好きだったのか、桜の季節にな  
ると毎年思い出されるでしょう。心惹かれる歌です。